

甲州印傳の魅力の世界へ

甲州印傳は江戸時代に遠祖上原勇七(現在は十三代)が鹿革に漆付けする独自の技法を創案したことにより始まり、400年以上の歴史があります。

昭和62年に国指定の伝統的工芸品に指定、平成6年には山梨県郷土伝統工芸品に認定され、その技は日本の革工芸の文化を伝える担い手となり山梨の特産品として、確固たる地位を築いて来ました。

当社では、甲州印傳の製品アイテムとして名刺入れ・財布・ポーチなどの小物からカバンまで約400種の製品を販売しています。

伝統工芸品とはいえ、製品開発は常に時代のニーズにあった新製品を作り出すための工夫を重ねています。

「印傳」の魅力が現代のライフスタイルに合う機能的で独創的な

「INDEN」として進化させ世界へ向けて発信していくため、2011年に印傳屋上原勇七のグローバルブランドとして「INDEN NEW YORK」を立ち上げました。

現在は、ニューヨークの特約店と契約し商品を卸しているが、今後は「INDEN」を世界に広げるために直営店を持つことを目標としています。

また、2014年には、甲州印傳とイタリアの高級ブランド・グッチとのコラボレーションを実現させ、数量限定での販売でしたが、好評を頂きすぐに完売となりました。

世界中で甲府にしかない甲州印傳の魅力が世界に向けて発信するために、これからも時代のニーズに合った新製品を作り出し新しい挑戦を続けて行きたいと考えています。

